

## 6. コロンビアの日常2

ラテンアメリカとコロンビアの警備業界：民間警備機関の概要 その2

ラテンアメリカの治安の悪さについては、公的機関の「警察」にも問題があり、また民間警備業界においても内部の諸事情を指摘することができる。民間警備と対置されるのは公的警備、つまり警察である。治安の悪化によって公的部門の予算は上昇しているが、それに伴う警察の業務内容が伴っていない上に、警察に対する信頼も薄い。

治安のとくに悪い中米のグアテマラ、ホンジュラス、サルバドルの総人口の50%の人たちが犯罪行為を防ぐのに警察は不必要だと考えているという<sup>(1)</sup>。そして、治安の悪化、国家機関の弱体化、(警察への)信頼の失墜などが民間警備を発達させる原因になった。また、ラテンアメリカでは2014年までに、合法的に行動する民間警備員が約160万人、無免許の警備員が200万人に上ると推定されているのである<sup>(2)</sup>。

ところが、民間警備会社自体が問題をはらんでいる。質の良いサービスをというよりも、どうやら「儲け」を一番に考えているようである。

グアテマラの警備会社組合の会長は次のように述べている。

違法な会社が正当な会社に悪影響を与えています。警備としての税金を納めないで、直接の利益をあげています。通常、(グアテマラでは)警備費用の月額額は約655ドルですが、違法会社は457ドル～523ドルと格安にしています。また、通信網の不備のため、サービスの質も低い。警備員としての適切な訓練をせず、資格を確認しないということもあります<sup>(3)</sup>。

民間警備は、ラテンアメリカではそれほど古くから存在しているわけではなく、比較的新しい「産業」なのである。不況である社会の雇用を増やしており、国家の公共治安部門(警察など)がカバーできなくなっている需要の高まりに対して治安対策を供給しているものだ。

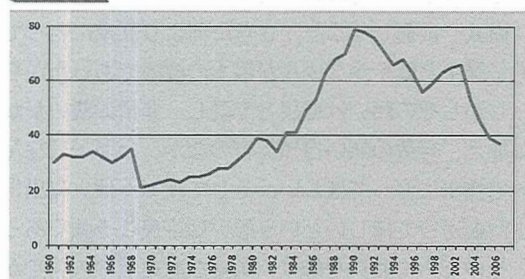
### コロンビアの治安と警備

さて、コロンビアにおける治安問題に話を移そう。コロンビアの警備の背景にあるのは、治安の問題である。

まず、警備の必要性を理由づけるコロンビアの治安状況の経緯を手短かに説明する。この40数年の間で一番高い殺人率は1991年における10万人あたり79人である(グラフ1参照)。

コロンビアの暴力(以下バイオレンス)の詳細については、

Gráfico 10. Homicidio tasa por 100.000 habitantes 1960 - 2006



Fuente: Policía Nacional: CIC-DUIN.

グラフ1：1960年～2006年までの10万人に対する殺人率  
www.scielo.org.co/scielo.php?script=sci\_arttextCpid=S1794-31082008000100005 "La violencia en Colombia: Análisis histórico del homicidio en la segunda mitad del Siglo XX"

ラテンアメリカ研究者にお任せすることにして、歴史的な治安の経緯を紹介し、国民性も考慮し、その関係を考察することにする。

20世紀のバイオレンス

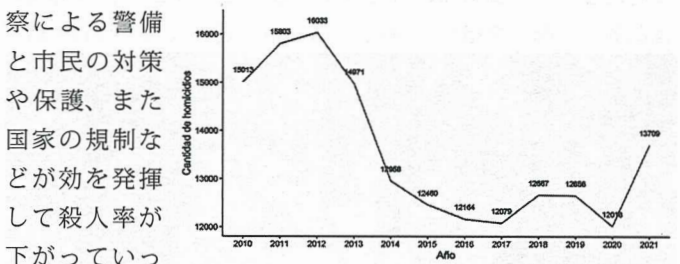
① 1948～1974年：この時期は、コロンビアの「バイオレンス時代 (La Violencia)」<sup>(4)</sup>と呼ばれる。それは政治社会紛争の時期であると同時に、「国民協定」の時代である。この時代は、2大政党(保守党 Partido Conservador・自由党 Partido Liberal)の政権争いが国内紛争の元となり、1,300万人の国の人口で、実に18万人もの犠牲者が出ている<sup>(5)</sup>。この内紛は全国に及んだ。

その後、2大政党が交互に政権を取る「国民協定 (Frente Nacional)」<sup>(6)</sup>時期が1958年～1974年まで続いた。その協定によって治安が一時的に落ち着く。しかし、それもつかのまのことで、結局、「二つだけの政治権力しか認めず、第三・第四勢力を排除した負の現象として武装集団、ゲリラが出現し、コロンビアの特徴の一つ《政治的バイオレンス》の常時化の根が作られた<sup>(6)</sup>」。

この時代の後半、つまり60年代あたりからFARC (Fuerza Armada de Revolución Colombia、コロンビア革命軍1964年結成)、ELN (Ejército de Liberación Nacional、民族解放軍1967年結成)、EPL (Ejército Popular de Liberación、コロンビア人民解放軍)も1967年に結成されている。

② 1974～1993年：この時期は、ゲリラが麻薬組織と結び付き、勢力を伸ばした時期でもあり、治安が大幅に悪化した。政府対ゲリラの構図に新たに麻薬組織が加わり、またパラミリ(右翼武装団)も現れ、1990年から1993年にかけては、殺人率は10万人あたり80人に届くまで高くなっていった。

③ 1993～2021年：ゲリラの抗争、犯罪の増加、法令や道徳の欠如などで治安が悪化し、1995年から2003年にかけてのバイオレンスの状況はまたもや厳しい状態となる。だが、警察による警備



グラフ2：2010～2021までの殺人者数  
https://www.lasillavacia.com/historias/historias-sillavacia/7-graficas-para-entender-los-homicidios-en-colombia-en-2021/ "7 gráficas para entender los homicidios en Colombia en 2021"

下がっていった(グラフ2参照)。2012年から2017年にかけては、2016年の「平和交渉 Proceso de Paz」により確かに60年続いた武装集団との交渉でゲリラ活動は治まった形にはなっている。しかしながら、ゲリラの残党や他の武装グループは活動を依然続けている。また、2021年4月から6月の国民ストライキでは多数の犠牲者が出て、いまだコロンビアの治安は不安定なままである。(続く)

[註]

- https://revistasumma.com/seguridad-un-desafio-de-primer-orden-en-america-latina/ "Seguridad: un desafío de primer orden en América Latina," Oct 22, 2018 Revista Summa.
- ibid.
- https://repositorio.flacsoandes.edu.ec/bitstream/10469/2717/1/BFLACSO-CS19-03-Betancourt.pdf
- 大文字で書く。1925年～1958年を指している。
- www.scielo.org.co/scielo.php?script=sci\_arttextCpid=S1794-31082008000100005 "La violencia en Colombia: Análisis histórico del homicidio en la segunda mitad del Siglo XX."
- ibid.